

**種の概要**

東北から九州の内湾や河口周辺に広く分布し、潮間帯下部から水深数mの砂泥・細砂底に生息する。殻長80mmの亜三角形をし、後背縁は直線的である。殻表は光沢があり、模様はほぼ淡色や太い長三角形の放射帯があるもの、山形の模様があるものなど、幾つかのパターンがある。ここ30年ほどの間に急激に減少し、今もなお漁獲されている伊勢湾や有明海においても漁獲量は激減直前の1から2割程度でしかない。漁獲量の激減に伴い中国からシナハマグリが輸入され市場に出ている。本種は海域での一時蓄養や潮干狩り場への放流も各地で行われている。

**主要な選定理由**

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○	○	△	○			○

**県内分布**

高砂市、姫路市、たつの市、豊岡市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

ランク変更なし。1990年代初頭の播磨地域においては、アサリ漁に少量が混在していたが、2000年代に入ってから、前浜干潟や大きな川の河口の砂干潟で若貝や死貝がわずかに見られる程度となり、現状ではアサリ漁でも混獲されないなど、ほぼ絶滅と判断されるまでに追い込まれている。日本海側の但馬地域においては、唯一円山川の汽水域に生息する。現状での生息数はそう多くないが、小規模ながらも水産物として漁獲される個体群量が存在する。

**保護上の留意点**

生息可能な前浜干潟や大河川の河口干潟は、以前より水質は良好になっているとみなされる。最低限、現状維持に努めることに加え、さらなる水質の改善などを行うことで、復活することも考えられる。円山川では、汽水域にある広大なひのそ島のかさ下げ改修や護岸工事が継続的に行われており、主な生息地である下流域へのシルトの流下や堆積による水質や底床の悪化が懸念される。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修